



NEWS LETTER

International Institute for Advanced Studies

vol. **82**
July
2012

CONTENTS

紹介

Introduction

2012年度研究プロジェクトの紹介 02-03



松岡博 姫岡とし子 藤田治彦 天野文雄 坂野仁 松沢哲郎 西村健一郎 松林公蔵 川上浩一 尾池和夫 毛利三彌
(2012年度研究プロジェクト研究代表者)

報告

Report

第71回理事会・64回評議員会を開催 06



立石義雄理事長 高橋一浩 監事 堀田凱樹 監事 丸野進 評議員 山内修一 評議員 (内藤 義弘 代理) 吉田多見男 評議員

お知らせ

Information

「高等研カンファレンス」「高等研レクチャー」を12月に開催 04-05

紹介

Introduction

「高等研学術道場プログラム」を実施 05

ご挨拶

Greeting

専務理事就任のご挨拶 07

お知らせ

Information

研究活動実績・研究活動予定 08





「2012年度研究プロジェクト」

2012年度研究プロジェクトの紹介

紹介

高等研の基本理念及び目的の達成に向けた事業の1つとして、研究プロジェクトを推進しています。2012年度は、現状の学術の動向と展望、高等研の存在意義も踏まえて、主軸研究プロジェクトを定めて推進するとともに、本年度から開始する新規4研究プロジェクト及び前年度からの継続7研究プロジェクトの合計11研究プロジェクトを実施します。これにより、異分野の連携によって、次世代の「学術の芽」を発掘し、さらにその「学術の芽」を育てることが期待されています。

テーマ1	「交渉学の可能性ー新しい世界の関係構築と紛争の予防のために」 研究代表者：松岡 博（大阪大学名誉教授 / 帝塚山大学名誉教授）
テーマ2	「ジェンダーからみた家族の将来」 研究代表者：姫岡 とし子（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
テーマ3	「アジア・デザイン・エンサイクロペディアの構築」 研究代表者：藤田 治彦（大阪大学大学院文学研究科教授）
テーマ4	「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究ー禅をケーススタディとしてー」 研究代表者：天野 文雄（国際高等研究所副所長）
テーマ5	「意識は分子生物学でどこまで解明できるか？」 研究代表者：坂野 仁（東京大学名誉教授）
テーマ6	「心の起源」 研究代表者：松沢 哲郎（京都大学霊長類研究所教授）
テーマ7	「『ケア』からみた社会保障の新たな展望」 研究代表者：西村 健一郎（同志社大学大学院司法研究科教授）
テーマ8	「老いを考える」(新規) 研究代表者：松林 公蔵（京都大学東南アジア研究所教授）
テーマ9	「ゲノム工学とイメージングサイエンスに基づく生命システム研究の新展開」(新規) 研究代表者：川上 浩一（国立遺伝学研究所教授）
テーマ10	「我が国の学術研究の現状の解析と将来のあり方に関する考究とアカデミアへの提言」(新規) 研究代表者：尾池 和夫（国際高等研究所長）
テーマ11	「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」ー「伝統」の相対化と「文化」の動態把握の試みー」(新規) 研究代表者：毛利 三彌（成城大学名誉教授）

今年度新たにスタートする研究プロジェクトの概要は次のとおりです。

テーマ8

「老いを考える」



研究代表者 松林 公蔵

近年、老化に関する生物学的研究は急速に進んできていますが、このような生物学的過程や機構が理解されるだけでは、人間の「老い」という問題に対処できません。それは、もはやガン・脳卒中・心臓病という死因解明や延命の科学だけではなく、加齢に伴い避けられない老人性痴呆と如何に向き

合うかが医学的課題となっており、そうした老人を抱えた社会全体がどのように生き延びていくかということがさらに重要であるからです。

本研究は、高齢者医学、老年社会学、老年心理学、分子生物学、進化学などの諸分野の研究者が老いの問題を議論し考究することを通して、「老い」に関する日本発の新たな学問を創成することを目指しています。



テーマ 9

「ゲノム工学とイメージングサイエンスに基づく生命システム研究の新展開」



研究代表者 川上 浩一

近年、ヒトの疾病に関する膨大な塩基配列データが蓄積されつつありますが、それらの真の意味を解読するためには、様々なゲノム工学的な手法を用いてゲノム・遺伝子を改変し、それらの機能を解明することが必要です。特に突然変異や遺伝子改変を生きたままの状態、可能な限り細胞レベルで

観察できる実験が必要となっています。

本研究は、生体内での細胞の動態を目で見ることが出来るモデル生物として「ゼブラフィッシュ」を主な対象とし、従来異なったグループによって開発・発展させられてきた「ゲノム工学」と「生体内細胞レベルのイメージングサイエンス」の両者を協力・発展させることにより、器官レベル、個体レベルでの生命現象を統合的に理解する新たな研究分野を開拓することを目指しています。

テーマ 10

「我が国の学術研究の現状の解析と将来のあり方に関する考究とアカデミアへの提言」



研究代表者 尾池 和夫

我が国の学術研究は、本来その担い手である大学・大学共同利用機関などが法人化されて以来、様々な問題を抱えていることが顕著になっています。例えば、組織的な過度の評価と研究の競争的研究費への依存度の増大とによって、研究者はそれぞれの専門領域の研究に多忙となり、他分野との交流は極めて希薄になっています。このような状態では、既存の分野を深化させていく傾向が加速され、既存の分野を超えた新たなコンセプトを創出させるような体制は弱体化してしまいます。

本研究は、我が国の学術研究の在り方について、現状を総合的に解析し、将来に向けてどのような対策が行われるべきであるのかを考究し、その成果をアカデミアなどに対して発信ないし提言することを目指しています。



テーマ 11

「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」—「伝統」の相対化と「文化」の動態把握の試み—



研究代表者 毛利 三彌

能楽、歌舞伎、文楽などの伝統演劇と呼ばれる演劇は、伝統という言葉によって、一般的には、不変というイメージが強く定着していますが、実際にはかなり大きく変容しているのがその実態です。しかしながら、その変容の実態に関する研究は、従

来ほとんどなされていませんでした。

本研究は、科学や技術の飛躍的な進歩とともに到来した近代という時代に、東アジア各国の伝統演劇が各分野においてどのように変容したかについて、その実態を明らかにして、「伝統」の相対化と「文化」の動態把握を通じて、新しい視点からの近代研究の地平をも切り開くことを目指しています。



お知らせ

「高等研カンファレンス」・「高等研レクチャー」

「高等研カンファレンス」「高等研レクチャー」を12月に開催

高等研カンファレンスは、現在、最も先端的に展開している学術の分野ないし課題について、国際的に一流の研究者が最新の知見を持って集まり、密度の高い議論を主体とする場です。その過程を踏まえて、今後さらに展開されると予想される問題点や方向性を明らかにし、広く研究者、学界等に向かって、新たな学術研究が展開する可能性や、我が国の学術研究の将来のために重要な問題を提起することを目指して開催しています。

また、高等研レクチャーは、高等研カンファレンス招待講演者の中から数名の講演者を選んで、最先端の学術研究の一端を学生や研究者、一般市民を対象に広く公開するもので、特に若手研究者の今後の研究活動に大いに刺激を与えることを期待しています。

2012年度の高等研カンファレンス・高等研レクチャーは「心の進化的起源 (Evolutionary Origins of Human Mind)」をテーマとして開催します。

それぞれの概要は次のとおりです。今後、詳細が確定次第、順次ホームページで紹介いたします。



オーガナイザー：
松沢 哲郎 (京都大学霊長類研究所教授)

高等研カンファレンス2012「Evolutionary Origins of Human Mind」

●日時：2012年12月3日(月)～6日(木)

●場所：国際高等研究所

●趣旨：第1回の高等研カンファレンスは、人間の心ないし意識と呼ばれるものの脳内機構とその分子的なメカニズムの解明に焦点を当て、「脳と心」の問題を神経科学の最前線から捉えた。それに対して、第2回にあたる今回は、非還元論的な手法にも焦点を当てて、心の働きの神経基盤だけでなく、社会基盤、発達基盤、進化基盤の解明を目指す。特に日本固有の貢献としての霊長類学やロボティクス (ロボット科学) の視点も取り入れたものとする。神経科学を基礎にしつつ、より広い視野から脳と心の問題を捉え、新しい学問の芽を育成することを趣旨とする。

●主な招待講演者(予定)

浅田 稔 大阪大学大学院工学研究科教授

足立 幾磨 京都大学霊長類研究所助教

石黒 浩 大阪大学大学院基礎工学研究科教授

入来 篤史 理化学研究所脳科学総合研究センター
シニアチームリーダー

北澤 茂 大阪大学大学院医学研究科教授

坂野 仁 東京大学名誉教授

明和 政子 京都大学大学院教育学研究科准教授

山岸 俊男 玉川大学脳科学研究所教授

渡辺 茂 慶應義塾大学大学院文学研究科教授

Dora Biro The Royal Society Research Fellow,
Department of Zoology, University
of Oxford, UK

David Leopold Principal Investigator, Division of
Intramural Research Programs,
National Institute of Mental
Health (NIMH), USA

William McGrew University Lecturer, Department
of Archaeology and Anthropology,
University of Cambridge, UK

Giacomo Rizzolatti Director, Department of Neurosciences,
University of Parma, Italy

Giulio Sandini Director of Research, Robotics,
Brain and Cognitive sciences, Italian
Institute of Technology (IIT), Italy



Crickette Sanz Assistant Professor, Department of Anthropology, Washington University in St.Louis, USA

Shinsuke Shimojo Professor, Biology Division, California Institute of Technology (Caltech), USA

David Skuse Chair, Behavioural and Brain Sciences, University College London, UK

Frans de Waal C.H.Candler, Professor of Primate Behavior, Department of Psychology, Emory University, USA

招待講演者に加え、ポスター発表者及び討論者については8月公募予定。

高等研レクチャー 2012 「心の進化的起源」

- 日時：2012年12月8日(土) 13:00～17:00
- 場所：東京大学伊藤謝恩ホール
- 趣旨：脳と心の科学研究を、神経科学を中心にして、比較認知科学や行動学という広がりをもった視点で紹介し、直前に実施する高等研カンファレンスの成果並びに情報を開示することを趣旨とする。

●講演者(予定)

Giacomo Rizzolatti Director, Department of Neurosciences, University of Parma

Frans de Waal C.H.Candler, Professor of Primate Behavior, Department of Psychology, Emory University

入来 篤史 理化学研究所脳科学総合研究センターシニアチームリーダー



高等研学術道場プログラム

「高等研学術道場プログラム」を実施

紹介

「高等研学術道場プログラム」とは、研究者を目指す大学院生に、高等研の研究プロジェクトに対等な立場で参画させる機会を提供することによって、経験豊かな研究者たちの学術の議論に直接触れながら、将来の研究課題の方向を見極める体験を持っていただくことを目的としています。また、これによって、次世代の研究者と高度の経験を持つ研究者との世代間交流を促進し、学術の芽を探し育てる議論の過程に大学院生が参加する機会を創出するものです。

本プログラムは本年度で3年目を迎え、これまで2010年度に2名、2011年度に3名の大学院生を受け入れました。参加者からは、ベテランの研究者や異分野の研究者との学問的かつ人間的交流は、普段の研究活動では得られない経験で、非常に有益なものであり、今後の研究活動に大いに活かされている、とのレポートをいただいでい

ます。中には、道場生として参加した翌年度から、研究プロジェクトの構成員となり、現在も引き続き参画されている方もいます。

このように、本プログラムは、経験豊かな人材

の宝庫である本研究所でなければできないものです。今年度も多くの大学院生に、経験豊かな研究者たちとの論議に参加していただくことで、次世代を担う研究者の成長を促すことを期待しています。



2012年度学術道場プログラムパンフレット



理事会・評議員会

第71回理事会・ 第64回評議員会を開催

6月26日(火)に第71回理事会・第64回評議員会を開催し、2011年度(平成23年度)事業報告、収支決算、及び公益財団法人への移行認定に係る申請について提案され、承認されました。その概要は次のとおりです。

1. 2011年度事業報告

2011年度の研究事業では、15件の研究プロジェクトを推進し、8研究プロジェクトを終了し、新規事業として「高等研カンファレンス・高等研レクチャー」を開催しました。

高等研レクチャーは、東京大学安田講堂において「神経科学の最前線：脳から心へ」をテーマに、ノーベル賞受賞者であるリンダ・バック博士をはじめ、著名な研究者によるレクチャーを行いました。

また、高等研カンファレンスは、「Frontiers in Neuroscience: from Brain to Mind」をテーマとして、当研究所の施設を活用し、最先端の分野の研究者が未公表のデータを持ち寄り、活発な議論が行われるなど、先進的な事業として成功を取めたことを中心に報告されました。

2. 収支決算報告

事業活動支出は、新規事業「高等研カンファレンス・高等研レクチャー」に対する日本学術



左から：田中評議員、立石理事長、岡橋専務理事

振興会や京都府からの事業経費の支援による協力を得たことや経費支出の圧縮の結果、予算比1,480万円を抑制することができ、1億8,178万円となりました。

一方、事業活動収入は、金融資産の運用収入は、6,434万円ではほぼ予算どおりでしたが、文部科学省科学研究費補助金の獲得、関西経済連合会からの助成などにより、予算比2,644万円増の9,574万円となりました。その結果、2011年度の最終収支は、修繕積立金・退職給付引当金等を含め▲9,311万円となり、「研究事業推進基金」から同額を取崩してこれに充当しました。

3. 公益財団法人への移行認定に係る申請について

2013年4月1日公益財団法人への移行登記に伴う内閣府への申請書類、定款ならびに必要な規程について、承認されました。





財団法人国際高等研究所 専務理事 岡橋 誠

専務理事就任のご挨拶

ご挨拶



専務理事 岡橋 誠

2012年4月1日付けで財団法人国際高等研究所の専務理事に就任いたしました。

財団設立以来、高等研が国際的に高い価値を持った事業を実行できておりますのも、学術界、産業界、そして学術政策・行政、それぞれの分野から

のご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたします。

1984年に起筆された高等研の設立趣意書の冒頭に「日本の社会は、今日、模倣による発展の時代から、創造による発展の時代に移行しようとしております。われわれは、この新しい発展の時代に備えて、創造のための組織をここに新しく構築しようとするものであります。」と記されています。同じ年、欧州では米国型の垂直統合型産業政策からの転換を目指すルクセンブルグ宣言が採択され、産学連携による共同研究や標準化におけるイニシアティブによりアジアの新興国に対抗していく戦略が既に練られていました。欧州におけるそれらの課題認識はまた、学術の進展が知力のインフラとして、より重要性を増すことが予見され、欧州各地に設けられた「高等研究所」の果たすべき役割について、産業界をはじめとする学術以外の世界でも認知を深めた時期であったと言えます。

それから30年近い歳月を経て、わが日本を取り巻く状況も大きく変化し、30年前に欧州が既に気づいていた課題も顕在化しています。グローバル視点で新たなイノベーションシステムを構築していくためには、まさに「創造のための組織」である高等研が「人類の未来と幸福のために何を研究すべきかを研究する」という基本理念に基づき、学術研究における新たな研究の萌芽を見だし、知力のインフラを強化すること

が求められていると痛感しております。

「学術」という言葉を使うことで、ステークホルダーのみなさまからも「難解で接点がないようなイメージを持ってしまう」とのご指摘を受けることがあります。学術とは「諸科学の全体」であり、さらに時々刻々多元化していくことから、知的活動の全体像をとらえることは益々難しくなっています。分化により各領域の専門性が高まる反面、各領域間のコラボレーションが困難になっているとも考えられます。

高等研においては特定の分野にとらわれず、分化しつづける諸科学を再度一体的にとらえて、自由な発想で新たな知の創造を行うという「新たな研究のコンセプトメイク」を担っていくことで、今後必要とされる研究分野を見極め、研究者の自由な発想を尊重しつつも、知力のインフラ強化に繋がる価値ある研究を推進して参ります。

高等研に与えられたミッションを強力に遂行していくためには、研究所自身の持続的な経営基盤の強化とともに、ステークホルダーのみなさまのご理解が必要です。高等研のミッションやコンセプトのブレイクダウン、および研究所活動のプロモーション、コミュニケーションをより一層進めることで、さらなる関係強化と成果共有を図って参りますので、益々のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



アメリカ出張での一コマ



研究活動実績 (4月1日~6月30日)

報告

会議・研究プロジェクト	開催日	研究代表者	参加者数
心の起源 (幹事会)	4月26日(木)	松 沢 哲 郎	7
心の起源	4月26日(木)	松 沢 哲 郎	25
2012年度第1回研究推進会議	4月27日(金)	志 村 令 郎	9
2012年度第2回研究推進会議	5月 8日(火)	志 村 令 郎	11
我が国の学術研究の現状の解析と将来のあり方に関する考究とアカデミアへの提言	5月29日(火)	尾 池 和 夫	13
2012年度第1回研究企画会議	5月30日(水)	尾 池 和 夫	7
ジオ多様性の研究	6月 8日(金)~9日(土)	尾 池 和 夫	18



研究活動予定 (7月1日~9月30日)

カレンダー

開催予定日	研究プロジェクト	研究代表者
7月21日(土)~22日(日)	『ケア』からみた社会保障の新たな展望	西 村 健一郎
7月31日(火)	ジェンダーからみた家族の将来	姫 岡 とし子
8月 6日(月)~10日(金)	数理解析研究所RIMS合宿型セミナー「ヤング図形・統計物理に関連する代数的組合せ論」 (京都大学数理解析研究所との協定に基づく共同研究)	石 川 雅 雄
8月20日(月)~21日(火)	東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」-「伝統」の相対化と「文化」の動態把握の試み-	毛 利 三 彌
8月30日(木)~31日(金)	宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究 - 禅をケーススタディとして -	天 野 文 雄
9月15日(土)	心の起源	松 沢 哲 郎

開催予定日	高等研カンファレンス・高等研レクチャー
12月 3日(月)~6日(木)	高等研カンファレンス 2012 「Evolutionary Origins of Human Mind」
12月 8日(土)	高等研レクチャー2012 「心の進化的起源」 (於: 東京大学伊藤謝恩ホール)



事務局だより



事務局長 貝田 辰雄

2012年3月21日に開催された理事会、評議員会にて、常務理事(事務局長兼務)に選出され、4月1日に着任しました貝田です。これまで約40年間、複数の国立大学等に在籍して教育研究の推進に係る業務を担当してきました。

今回は、財団法人という組織の中で学術研究を推進する立場になりましたが、この法人の大きな目標に向けた研究活動の推進に向けて、これまでの経験を生かして、心機一転、奮闘する決意をしたところです。

本法人の設立理念及び目的の実現に向けた研究活

動を、4月1日に私と一緒に着任した浅井総務部長、津倉経理部長、研究企画部の森口さん、三木さんも含めて、本法人の素晴らしい研究環境を活用して、事務局職員が一致協力して推し進める所存でありますので、関係各位の一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたします。

高等研では、今年も4羽のツバメの雛がかえりました。写真は大きな口を開けて、餌を待っているところです。最後は、雛たちは巣からこぼれんばかりの大きさになり、無事に巣立っていきました。

